

感震ブレーカーアダプター

ヤモリ【GV-SB1】

取付説明書



株式会社 リンテック21

2024.5.15

【事前確認】



まず箱からヤモリを取り出して下さい。

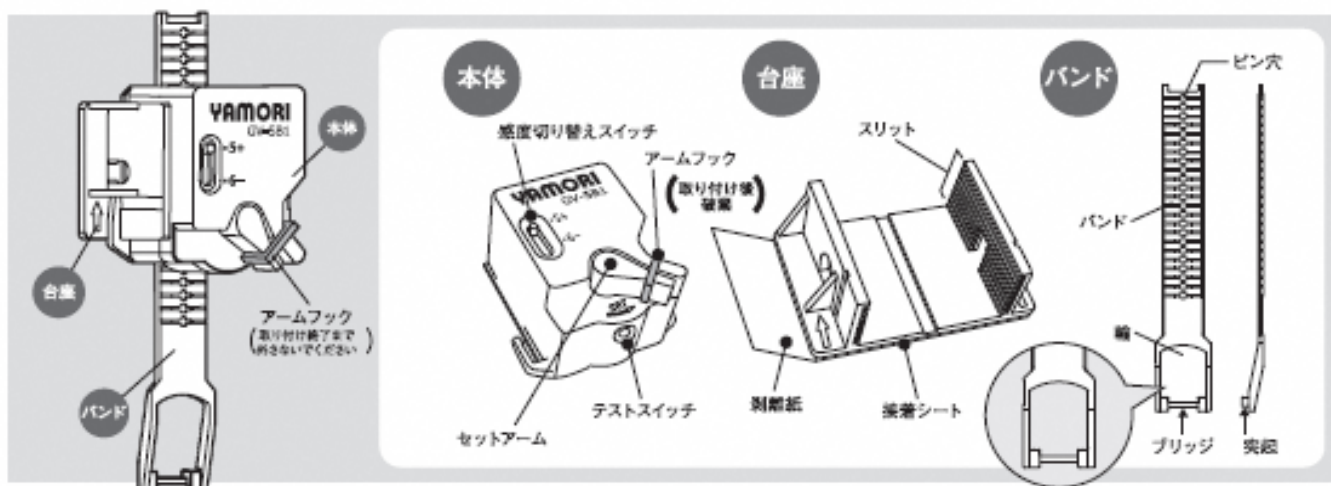
ヤモリ本体

アームフック（赤色）

バンド

アルコールパッド
（取り付け箇所の清掃に使用します）

各部の名称



製品の構成

- 本体：1個（構成：本体、台座、バンド、アームフック 各1個）
- アルコールパッド：1枚
- 取扱説明書（本書）：1部 ※開梱したら構成品をご確認ください。

お客様にご用意いただく物

- はさみ（取り付けの際にバンドが長い場合、カットする為の使用）

【注意事項】（必ずお読みください）

- (1) アームフック（赤いフック）は取り付け完了まで外さないで下さい。
外してしまうと、正確な取り付け位置がとれません。
- (2) 取り付け位置確定後、添付のアルコールパッドで必ず分電盤の接着面を清掃して下さい。アルコールパッド使用后、必ず乾燥（2～3分程度）させて下さい。
- (3) パソコン、録画機器、炊飯器等の電機製品の電源が切れている事を確認して下さい。
- (4) 昼間の明るい時間帯に作業してください。（テスト時にブレーカーを遮断します。）
- (5) ホームセキュリティにご加入の場合、停電になる旨を事前に警備会社へご連絡下さい。
（事前通知しない場合、緊急出動がかかり別途費用が発生する場合があります。）
- (6) ご自宅内に人工呼吸器などの生命維持に関わる医療器具が設置されている場合は、
医療器具補助電源が確実に動作することをご確認の上、作業開始して下さい。

● よくある質問

◇セットアームがセット場所に固定できない。（レバーがかからない。）

ヤモリは垂直な状態でなければセットアームが固定できない構造となっております。
水平、斜め、逆さまの状態ではレバーがかかりませんが、不良や故障ではありません。

◇ヤモリはどこにつけるの？

漏電ブレーカーまたは、アンペアブレーカーへ取り付けます。
取り付ける場所は、ブレーカースイッチの上か下になります。

※ 初期状態では、スイッチの上に取り付ける形になっております。
スイッチの下へ取り付ける場合は、バンドの向きを変更する必要があります。
（6ページをご参照下さい。）

※ 埋込タイプのスイッチの場合、台座の調整が必要です。
（7ページをご参照下さい。）

（将来的にアンペアブレーカーを撤去する可能性があり、どちらかといえば
漏電ブレーカーへの取り付けをお勧めしております。どちらも効果は同じです。）

● 備えの必要性

大地震が起きて感震ブレーカーが作動すると、家中の電源が遮断され電気も消えます。
また、台風・事故などその他の災害でも停電は発生します。
常日頃からそのような災害を想定し、懐中電灯や災害用常備灯などの照明器具、
電池式ラジオなどの防災用品を併せてご準備いただく事をお願い申し上げます。

【基本取付方法】

① 接着位置の清掃

接着位置が決まったら、乾いた布で拭いてホコリを取り除きます。
付属のアルコールパッドを使い接着部分をきれいにします。

※ アルコールが乾くまでは貼り付けしないで下さい。

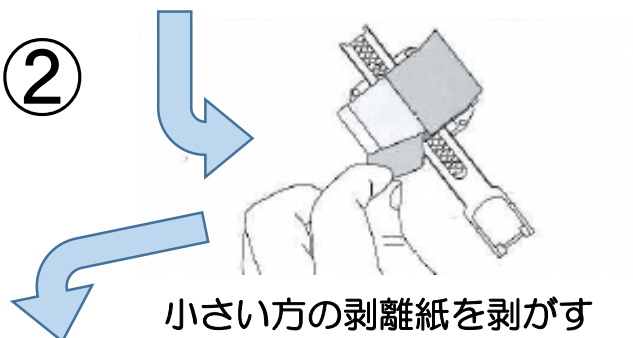
布で軽く拭く



アルコールパッドで仕上げ



②



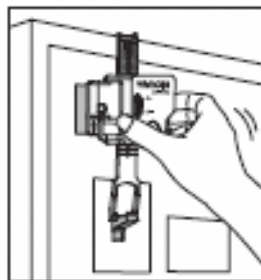
小さい方の剥離紙を剥がす

③ 仮固定

垂直になるように手で持ちます。バンドのブリッジ先端をブレーカーのレバー上部に軽く押し当て、本体を分電盤に押し付けます。

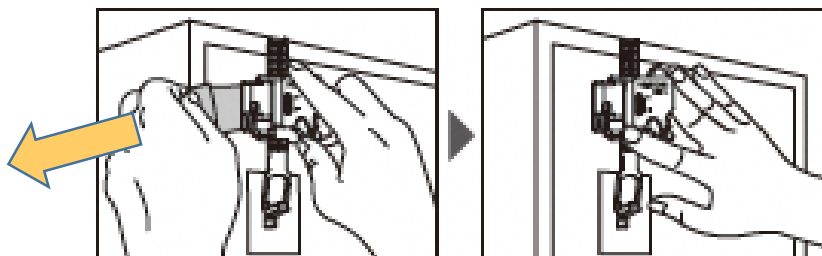
※ 画像はスイッチ上部への取り付けです。

スイッチ下部への取り付けは、バンドを上下逆に付け替える必要があります。(6ページ参照)



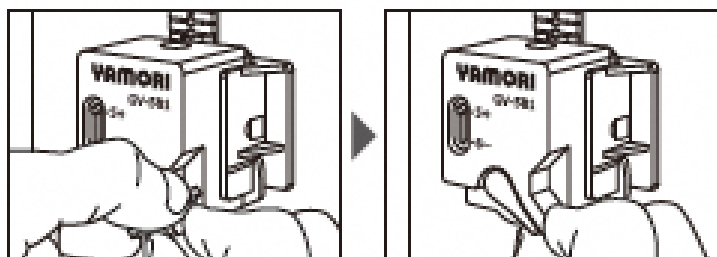
④ 本固定

外に出ている残りの剥離紙(大)を左側へ引きながら剥がします。
次に、ヤモリ本体を5回程、分電盤へ強く押し付けて下さい。

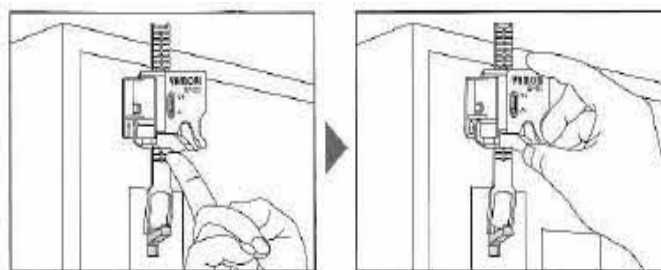


⑤ アームフックの取外し

右手でセットアームを軽くつまみ、左手でアームフックを手前に引いて外します。右手はそのままセットアームをさらに強くつまみセットします。



⑥ 動作テスト



赤いテストスイッチを押し、電源が落ちたらOKです。
再度、セットアームを右にカチッとロックさせ
ブレーカーのレバーを上げセット完了です。

【バンド向き変更方法】

※ブレーカースイッチの下側へ取り付ける場合

①本体と台座を分離します。

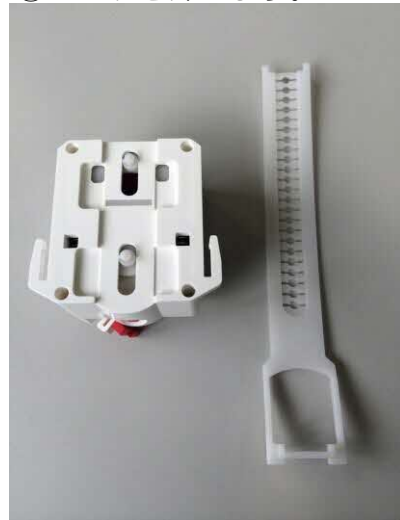


(本体を下方へスライド)

②本体を裏返します。



③バンドを外します。



④バンドを上下逆に付け替えます。



⑤本体を台座へ戻します。



(今度は下から上へ差し込む形で)

⑥準備完了です。



※ 取り付けイメージ画像



- 分電盤の形状に合わせ、バンドの長さや本体と台座の高さを調整できます。
- バンドは必ず2点で留めて下さい。
- バンドは表裏が決まっております。センター付近の溝が無い側が本体側です。
- 台座は上下が決まっております。台座左右の矢印を参考にして下さい。
- **ブレーカーのレバーに、バンドの口を引っ掛けるような形で取り付けます。**

【埋込型スイッチへの取付方法】

①本体と台座をスライドさせ分離します。



②台座の一番下のスリットへ
ヤモリ本体を入れ直します。



この部分です。

③矢印部分の突起をスイッチへ入れ込んで
位置合わせをします。



この部分で



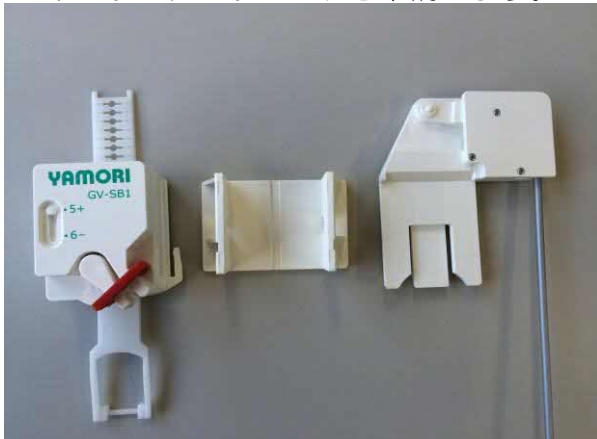
④位置合わせ後、両面接着にて固定して下さい。



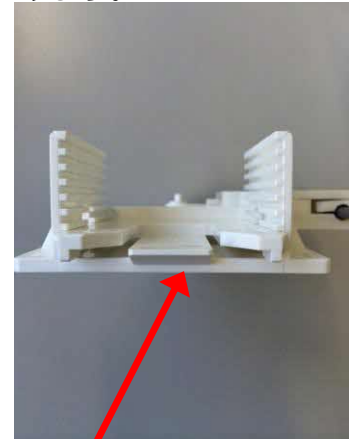
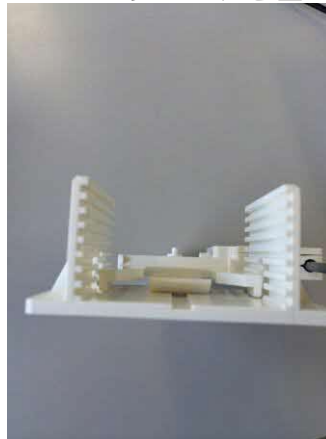
● 埋込型スイッチの場合も、スイッチの下側に設置の際は、
バンドの上下を逆に付け替えていただく必要があります。
(6ページ参照)

【ヤモリ・デ・リモート セッティング方法】

①ヤモリ本体と台座を分離し
ヤモリ・デ・リモートを準備します。



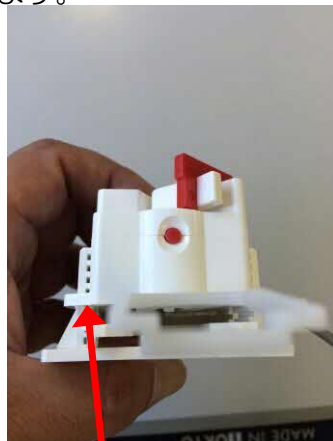
②台座の下から2番目のスリットに
リモートを差し込みます。



下から2段目のスリットへ

この状態まで差し込む。
(カチッというまで)

③台座の下から4段目のスリットに
ヤモリ本体を差し込みます。



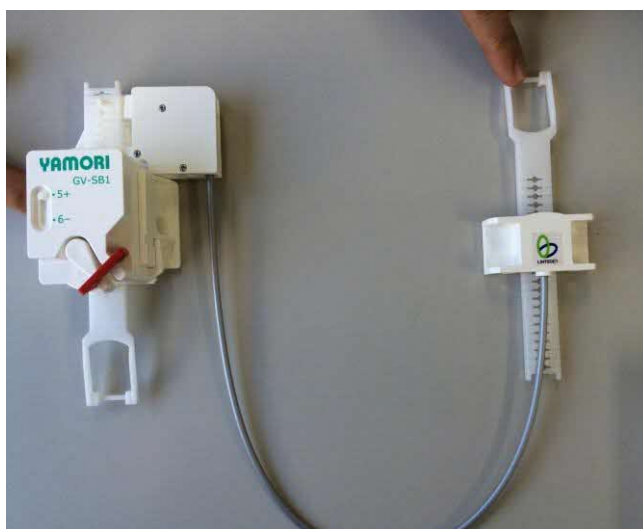
下から4段目のスリットへ

④ヤモリ本体のバンド上から2個目の穴に
リモートの突起を入れ込んで下さい。

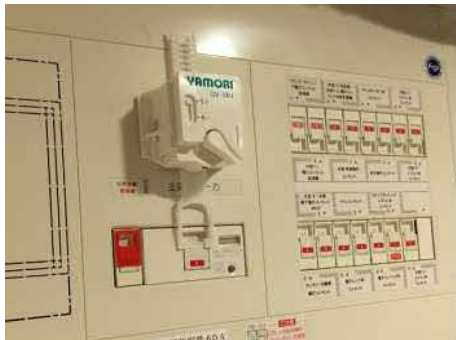


この状態
です。

【参考】完成図



【取り付け事例画像】



ヤモリ補助板



＜補助板使用＞設置例①



＜補助板使用＞設置例②



- 補助板に関しては、弊社へご相談ください。

カバー付き分電盤にヤモリを取り付けるとカバーが浮く。（作動に支障はありません）



ヤモリとリモートの組み合わせでカバーが閉まり、収まりがいい。



【取り付け不可（困難）例】

例① スイッチが堅い



河村電器産業(株)製は堅い傾向があります。
パワーヤモリ（別売）のご使用で設置可能です。
また、分電盤のはめ合わせパネルが動く場合には、
画像のようにテープで固定する事で対応可能です。

例② スイッチストロークが長い



パワーヤモリ（別売）のご使用で設置可能です。

例③ スイッチが強く幅が広い



ブレーカーの上部に取り付けする事ができれば、
パワーヤモリ（別売）のご使用で設置可能です。

例④ アンペアが大きい（75A、100A等）



パワーヤモリ（別売）のご使用で設置可能です。

例⑤ 開閉器タイプ



こちらの機器へは設置はできません。
分電盤への交換をお勧めします。

例⑥ 金属製蓋観音開き分電盤（蓋が閉まらない）



蓋と枠を加工し、ヤモリ・デ・リモート（別売）のご使用で設置可能です。ただし、金属製の蓋や枠は加工が難しく、電気業者等に依頼することをお勧めします。

例⑥ カマボコ型（表面が湾曲している）



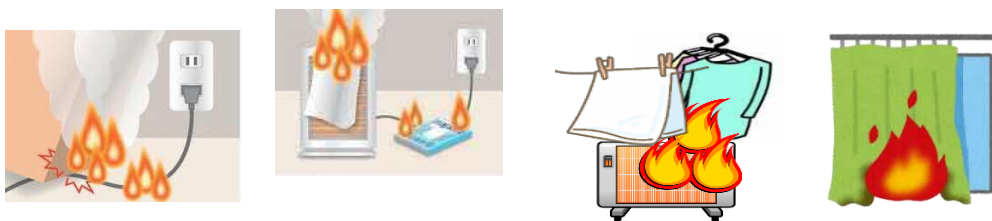
ゆるい湾曲の場合、プレーカースwitchにバンドがかかればほぼ問題ありません。
ただ、Switchの上に取り付けると、曲線度合いによりますが稀にバンドが滑ってSwitchが落ちきらない場合がございます。
そのような場合はSwitchの下側へ取り付ければ問題ありません。
曲線がきつい場合は当社が指定する両面接着材を使用し、スペーサーを作成すると設置可能です。

【作動後の復旧方法 注意点と手順】

感震ブレーカー作動後の復旧方法(注意点)

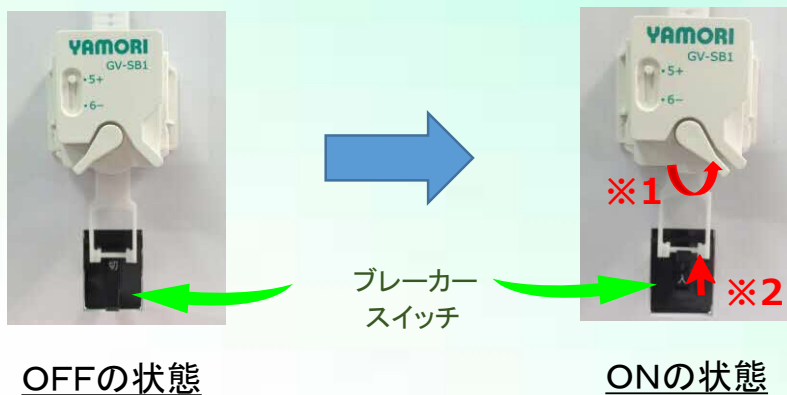
1. 建物が全壊や半壊となった場合には復旧しないで下さい。
2. 通話可能な電話と使用可能な消火器を用意して下さい。
3. 復旧作業は日中になるべく2名以上で行って下さい。
4. 電化製品のコンセントを全て抜いて下さい。

チェックをしないとこんな事に



感震ブレーカー作動後の復旧方法(手順)

- ・最初に、分電盤の**子(分岐)ブレーカー**を**全てOFF**にします。
- ・次に、**【ヤモリ】**のレバーをロックされるまで右側に捻り**ON**にします。**※1**
- ・**【ヤモリ】**がセットされている**ブレーカー**を**ON**にします。**※2**
- ・最後に、安全を確認しながら子(分岐)ブレーカーを1つずつ**ON**にします。



★漏電ブレーカーは、ONの状態に戻す時にリセットしないとスイッチが戻らないタイプがありますのでご注意ください。(リセットとは、リセットボタンを押しながら、又は一度押してから戻す、或いはスイッチを一旦下げきってから戻すなどの方法があります)